


域内連関によるフキ栽培の復興 ～特産品を活用した地域づくり～

実施主体：一般社団法人音別ふき落団（釧路市）

取組内容

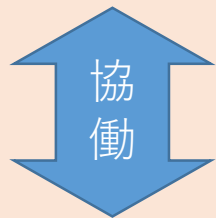
- 2017年設立。「ふきで音別町が有名になり、若い人から年配の方までどんな人も自信を持ってイキイキと暮らせる」をビジョンに掲げ、かつて特産品であった落の生産を復活させ、栽培・加工・販売を通じ、地域の様々な人が交流する場、多様な人が働き、活躍する居場所づくりを行っている。



- ・落の生産
- ・商品開発、販売
- ・レシピ開発



- ・地域資源（落）の活用
- ・産業の創出
- ・障がい者、高齢者、生活困窮者等の雇用の創出



- ◆全体コーディネート（釧路社会的企業創造協議会）
- ◆労働力・支援員の派遣（おんべつ学園、釧路市生活福祉事務所）
- ◆経営支援（大地みらい信金）
- ◆食品加工・開発販売（グリーンコープ、リバーグリーン、We&E）
- ◆地域振興支援（釧路市音別町行政センター）

実績・効果

2020年は40トンの落を生産し、ピクルスや天ぷら、菓子などの加工も行った。釧路社会的企業創造協議会をはじめ、関係機関と連携し、障がい者や高齢者、生活困窮者の雇用を行っている。

九州や中国地方に販路を拡大し、首都圏への販路拡大も目指す。社会的価値の高い取組に賛同した団体が、ロゴの作成や、製品開発などのブランドづくりに協力するなど、支援の輪が広がっている。

活用した制度等

- ・わがまち基金（日本財団、大地みらい信金）

苦労・課題

- ・生産から、「商品開発・販売」の段階への移行に伴い、目的を確認して、新たな関係性を構築していく必要がある。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- ・無農薬など目に見えない価値があり、製品のさらなる付加価値向上の可能性がある。
- ・落の生産や加工を通じて、住民が色々な形で関わるのが大事。持続可能なまちづくりは地域経済を安定させる。

本取組のお問い合わせ先

一般社団法人 音別ふき落団
 電話：01547-6-8011
 E-mail：mari.5.8.cafe@docomo.ne.jp



農福連携 ～ 誰もが安心して暮らせる地域づくり ～

実施主体：特定非営利活動法人 生活学舎のんき（鶴居村）

取組内容

【地域と関わる障がい者就労】

- 障がいを持った方が、自然や地域に関わる生活ができるよう、鶴居村で生産される大豆を使った豆腐の生産や、豊かな水資源を活用したクレソンの栽培や山わさびの生産、プリンやおからクッキーなどの加工や住民への対面販売などを行っている。

〔生産〕

- ・やまわさび、にんにく、クレソン、ルバーブ、明日葉、ニラの栽培

〔加工〕

- ・鶴居村の農家が生産する大豆を使用し、豆腐、プリン、おからクッキーに加工

〔販売〕

- ・生産、加工品の移動販売

〔委託業務〕

- ・高齢者宅等の除雪、除草、清掃、引っ越し

- 住民との対面作業による地域住民との交流
- 地域住民・顧客からの支援
- 高齢者など顧客の状況確認（地域への貢献）

○地域との関わりの構築

- 誰もが安心して暮らせる地域づくり



実績・効果

障がいを持った利用者が、農産物の生産や加工、除雪などの委託業務を通じて、住民や地域社会との関わりを構築している。
また、加工品に地域の良質な農産物を使用することにより、売り上げを維持し、利用者の作業工賃を確保している。

活用した制度等

- ・就労継続支援B型事業

苦労・課題

- ・利用者の工賃向上のため、販路の拡大や売り上げの向上に取り組みたいが、機械化など更なる効率化が必要。
- ・販売価格の維持が課題。買い叩きを防ぐため、スーパー等への納品は行っていない。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- ・利用者の生活の安定だけでなく、地域との関わりを重視している点が評価できる。
- ・若者のインターンシップなどの場を設けると、さらに広がりが期待できる。

本取組のお問い合わせ先

特定非営利法人 生活学舎のんき
電話：0154-64-2066

地域商社の設立 ～3つのマチから「売れる」を作る～

実施主体：(株)キットブルー（神恵内村・岩内町・泊村）

取組内容

【地域のブランド力を磨く】

「持続可能な漁村まちづくり」をミッションとして、漁業者の所得向上や後継者問題の解決、増養殖事業の確立などに取り組むため2017年設立。産地と消費者をつなぎ、特産品である「ナマコ」「ウニ」はもとより、豊かな観光資源も含めて地域の魅力を国内外に発信し、地域資源の発掘を含め、地域のブランド力を磨く。

◆背景

- ・ニシン、スケトウダラ、サケ、マスで栄えたが、漁獲量が落ち、汽船漁業が衰退
- ・ウニ、ナマコ、アワビなど浅海漁業は磯焼けの進行により生産減
- ・天然資源の減少、資源枯渇の恐れ（荒れる日本海では海面養殖は不向き）

◆可能性

- ・国内旅行者に加えインバウンドの増加によるウニの需要の高まり
- ・中国の経済成長により、ナマコの価格が10年で10倍に

地域商社「キットブルー」の設立

- ◇ 3町村出資による地域商社の設立（神恵内村、岩内町、泊村）
 - ・ 地域の水産資源（ウニ・ナマコ）を活用した商品開発・販路の拡大
 - 乾燥高級ナマコの商品化、ナマコの機能性を活用した美容関連商品の開発
 - 短期養殖ウニの端境期出荷による高付加価値化（「冬ウニ」のブランド化）
 - 国内（インバウンド客が多いニセコエリア等）や国外（香港他）での販路開拓を積極的に展開。



地域ブランドの確立



実績・効果

ウニについては、給餌方法を工夫して短期籠養殖（9～12月）を行い、生ウニが品薄となる年末年始の出荷により高値での取引が可能となった。ナマコについては、透明性の高い国際商流の確立による販売促進など、主に中華系富裕層から高く評価されている。



活用した制度等

- ・ 地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金（内閣府）
- ・ JAPANブランド育成支援事業

苦労・課題

- ・ コロナ禍により、ナマコ販売の主要ターゲットだった中国人観光客が激減し、売り上げも減少した（現在、ナマコの商流を活用したホタテの販路拡大や新商品開発と個人向けネット販売を展開中）。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- ・ 日本海側の漁村は苦戦している中、行政と民間の連携の好事例。
- ・ 子どもがふるさとに誇りを持つために、生産現場の見学やインターンシップなどもあると良い。

本取組のお問い合わせ先

(株)キットブルー <http://www.kitblue.jp/contact/>

観光による「まちおこし」 ～ここでしかできない体験～

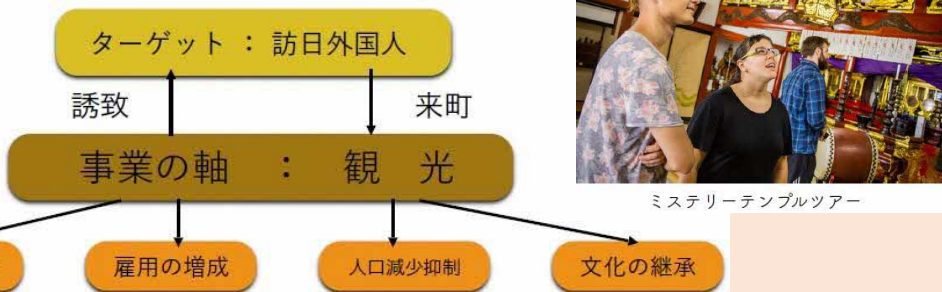
実施主体：IWANAI UNITED（岩内町）

取組内容

【観光総合コンシェルジュとして地域の魅力を発信】

岩宇地方（岩内町、共和町、泊村、神恵内村）初の旅行会社として、2018年に設立。訪日外国人のサポート（現地ガイド、コンシェルジュ、翻訳・通訳等）とともに、都会にはない地方の魅力や訪日外国人が求める日本らしさを発信。

- ◆背景
 - ・地域に旅行会社がなく、観光ガイドやバイリンガルスピーカーが不在
- ◆業務
 - ・通訳ガイド、旅行総合コンシェルジュ、翻訳・通訳
 - ・プロデュース業、国内／海外メディア誘致・対応／イングリッシュキャンプ
- ◆取り組み
 - ・地域のこどもたちへの英語教育、食育教育（無償）



ミステリーテンブルツアー

町民一丸となつてのまちおこし

若者の心身からの「地元離れ」の解消を。子どもたちに「岩内なんて」と言わせない！



海苔打ちツアー（岡田商店）

実績・効果

- ・漁師のお母さんと鮭をさばく体験など、当たり前にあることをいかに違う視点で見られるかをコンセプトにしたツアーの企画。
- ・地域資源の海外への発信（1千万世帯への配信網を持つカナダのテレビ局の誘致（164カ国へ配信中））



漁師の奥様あきさんのお家で料理体験



苦労・課題

- ・観光情報の発信拠点や多言語対応できる店舗など、町内における外国人観光客の受入体制強化が課題。

元気なふるさとづくり研究会委員から

- ・地域の人たちが良好な協力関係を築き、外部から人を呼び込んでいる好事例
- ・観光が地域にとってのまちづくりのツールとなっている。また、将来を担う子どもたちに外の世界を見せることができている。

本取組のお問い合わせ先

IWANAI UNITED
https://m.facebook.com/iwanaaiunited/?locale2=ja_JP